

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110	15-090	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and cardiovascular disease, cancer, injury, admission to hospital, and mortality: a prospective cohort study. 飲酒と循環器疾患・がん・外傷・入院・死亡リスク：前向きコホート研究		
執筆者		
Smyth A, Teo KK, Rangarajan S, O'Donnell M, Zhang X, Rana P, Leong DP, Dagenais G, Seron P, Rosengren A, Schutte AE, Lopez-Jaramillo P, Oguz A, Chifamba J, Diaz R, Lear S, Avezum A, Kumar R, Mohan V, Szuba A, Wei L, Yang W, et al.		
掲載誌		
Lancet. 2015 Nov 14;386(10007):1945-54. doi: 10.1016/S0140-6736(15)00235-4.		
キーワード		PMID
飲酒、循環器疾患、がん、外傷、コホート研究		26386538
要 旨		
目的： 飲酒は健康に対する有害性、有益性の両面の報告があり、その知見の多くが高所得国からのものである。本研究は所得水準の異なる国々から構成する前向きコホート研究において飲酒と疾病の関係を明らかにすることである。		
方法： 12 か国からなる 35-70 歳を対象とした前向きコホート研究 The Prospective Urban Rural Epidemiology (PURE) study を用いた。コックス比例ハザードモデルを用いて、死亡(2,723 名)、循環器疾患(2,742 名)、心筋梗塞(979 名)、脳卒中(817 名)、アルコール関連がん(764 名)、外傷(824 名)、入院(8,786 名)、これらの複合アウトカム(11,963 名)と飲酒との関連を検討した。		
結果： 対象者は 114,970 名の成人、追跡期間の中央値は 4.3 年(IQR 3.0-6.0)。現在飲酒者は 36,030 名(31%)であり、非飲酒者に比べ心筋梗塞のリスクが低かった (HR 0.76、 95%CI 0.63-0.93) が、以下のアウトカムではリスクが高かった：アルコール関連がん(HR 1.51 95%CI 1.21-1.89)と外傷(HR 1.29 95%CI 1.04-1.61)が高かった。大量飲酒群に限ると死亡のリスクが高かった(HR 1.31 95%CI 1.04-1.66)。生涯非飲酒群に比べて、現在飲酒群は高所得国と高所得国では複合アウトカムのリスクが低かった(HR 0.84 95%CI 0.77-0.92)が、低所得国と低所得国ではリスクの減少は見られなかった(HR 1.07 95%CI 0.95-1.21)。		
結論： 本研究は疾患・所得別のリスクを明らかにし、各国の政策に寄与するものである。		